

さんま棒受網・秋さけ定置網漁業 大幅な不振

～「ぎょさい」・「積立ぷらす」で多額の支払～

漁業収入安定対策事業を活用した「ぎょさい」の新規加入、契約割合の引き上げと「積立ぷらす」の加入推進に全力を挙げて取り組んできた結果、平成 24 年度の「ぎょさい」の引受実績は、過去最高を更新し、共済金額 5,000 億円を突破する見込みです。また「積立ぷらす」においても、漁業者積立額が 157 億円の見込みで大幅増となっており、関係各位の皆様のご支援・ご協力の賜物と、心から感謝申し上げます。

そのような中、平成 24 年漁期のさんま棒受網、秋さけ定置網漁業で、多額の支払が発生しています。

さんま棒受網漁業では、全国の漁獲重量は前年を上回りましたが、魚体の小型化が顕著で、魚価は 78 円/kg（前年比 70%・33 円安）と低迷し、漁獲金額は 169 億円（前年比 74%）にとどまりました。この結果、共済責任期間が終了していない三重県を除くと、「ぎょさい」が共済金 9 億 4 千万円、「積立ぷらす」は払戻金 6 億 6 千万円（漁業者＋国。以下同じ。）合計で約 16 億円の支払を 2 月末に行いました。

一方、秋さけ定置網漁業では、平成 22、23 年に続き 3 年連続となる来遊不振に見舞われました。1 尾あたりの平均重量が北海道で 3.1kg（前年比 93%）、岩手県では 2.7kg（前年比 86%）と小さく、両県ともに漁獲尾数が前年を上回りながら、漁獲重量は前年を下回りました。産地価格も前年より安く、漁獲重量の減少を単価で補うことができず、漁獲金額は北海道で 497 億円（前年比 91%・12 月末終漁）、岩手県では 40 億円（前年比 92%・2 月末速報）と減少しました。秋さけ定置網漁業の支払見込み（3 月末時点）は、北海道で共済金 18 億円、払戻金 28 億円、岩手県で共済金 7 億円、払戻金 9 億円で、両県をあわせると共済金 26 億円、払戻金 37 億円、合計で 63 億円と過去 2 年を上回る支払が見込まれています。

こうした来遊不振や魚価安などによる深刻な減収に備え、漁業収入安定対策事業による共済掛金の追加補助を活用して契約割合を引き上げるとともに、「ぎょさい」の対象にならない減収部分を補てんする「積立ぷらす」とを組み合わせることで補償の充実を図り、漁業経営の安定に役立てて頂きたいと思っております。